

倉敷・川崎医療短大で公開セミナー

「ケアニン」という言葉をご存じだろうか。映画「ケアニン〜あなたでよかった」の中で使われた造語で、介護、看護など人のケアに関わり、誇りを持って働いている人をそう呼ぶそうだ。そんな介護職をテーマに川崎医療短期大学医療介護福祉科（倉敷市松島）の公開セミナーが同短大で開かれた。「きつい」「汚い」「大変」といったマイナス面で捉えられがちな介護のイメージを払拭し、働きがい伝えるのが狙い。人生に寄り添う介護職の魅力をアピールした。（斎藤章一朗）

「ケアニン」という言葉をご存じだろうか。映画「ケアニン〜あなたでよかった」の中で使われた造語で、介護、看護など人のケアに関わり、誇りを持って働いている人をそう呼ぶそうだ。そんな介護職をテーマに川崎医療短期大学医療介護福祉科（倉敷市松島）の公開セミナーが同短大で開かれた。「きつい」「汚い」「大変」といったマイナス面で捉えられがちな介護のイメージを払拭し、働きがい伝えるのが狙い。人生に寄り添う介護職の魅力をアピールした。（斎藤章一朗）

人生に寄り添う「ケアニン」

セミナーは9日にあり、映画「ケアニン」の上映会と、現役介護福祉士らによるトークイベントで構成され、市民や学生ら約60人が参加した。

当たり前の手助け

映画は、全国30カ所以上の介護施設や関連団体で現場の声を取材し、生の姿を描き出すと作られた。

舞台は、ある小規模介護施設。主人公の新人介護福祉士・大森圭は、高齢者とのコミュニケーションがうまくいかず、悩みながら毎日過ごしていた。ある日、街を徘徊する認知症の星川敏子を発見。

後日、担当になる。少しずつ打ち解け、昔は幼稚園の先生をしていたこと、オルガン演奏が得意なこと、子どもたちとミカン狩りに行ったことなど思い出を聞き出し、彼女の人生に沿ったケアの仕方を考える。介護者と利用者という関係ではなく、人として向き合うことで、少しずつお年寄りやその家族と関係を深めていく。



川崎医療短期大学の公開セミナーで介護福祉士の魅力について語る雪吉さん（左）と居村助教

映画やトーク 介護職の魅力アピール

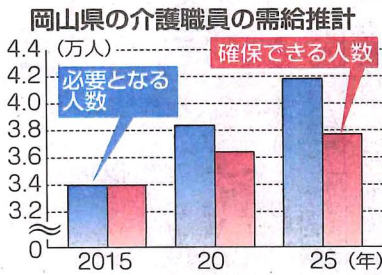
映画「ケアニン〜あなたでよかった」の一場面。©「ケアニン」製作委員会



人間と向き合えるようになったら一人前のケアニンだ」と優しく話す。介護福祉士の仕

人手不足25年4109人 岡山県内

介護現場の人手不足は深刻だ。岡山県が作成した第7期県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画によると、2020年に必要となる介護職員数は3万8373人。一方、確保できる職員数は3万6398人で、1975人が不足見込という。



今年1月末現在の県内の介護福祉士は3万12人（公益財団法人社会福祉振興・試験センター調べ）。2000年の4016人から7・5倍に増えているが、不足分を補うまでには至っていない。居村貴子助教によると、近年は福祉施設勤務だけでなく、病院など医療機関でも介護福祉士の需要が増えているという。

事については「寄り添っていき、互いに助け合う。当たり前のことだ」と、決して特別なことをするのはなく、高齢者が普通の暮らしを送るために当たり前の手助けをすることを訴えていた。

「現場力」重要
トークイベントでも「普通に接する大切さ」が強調された。同短大卒業生で、瀬戸内市の特別養護老人ホームに勤める雪吉真帆さん(22)と、自らも10年以上の施設勤務経験がある同短大の居村貴子助教は「介護は『してあげる』のではない」と断言した。雪吉さん。

岡山労働局がまとめた介護関連職業の求人・求職の動きをみると、17年9月以降の求人は5千人台で推移。求職者は1200〜1500人となり、有効求人倍率は今年1月の時点で4・12倍に上る。他の職種も含めた有効求人倍率（季節調整値）2・00倍と比べると非常に高い。

県保健福祉部は「今後、増加が見込まれる要介護状態や認知症の高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できる地域包括ケアシステムを構築するためには、介護サービスに従事する職員の確保と資質向上が大きな課題」とし、介護職員確保に向け、面接会やマッチングといった施策展開に力を入れる。

(斎藤章一朗)